

1. 科目名 (単位 数)	多文化コミュニケーション (2単位)	3. 科目番号	GELA1136 GELA1329 GELA1336 JNGL2309
2. 授業担当教員	志手 和行		
4. 授業形態	講義、ペアワーク、グループディスカッション、グループ発表	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係	多文化理解入門を受講していることが望ましい。		
7. 講義概要	グローバル化が進むにつれ、異なる母語・習慣・価値観をもった人たちが同士の多文化コミュニケーションは日常的になりつつある。本講義は、自分の視野をこのような多文化「共生社会」にむけて広げ、必要とされるコミュニケーション能力を修得することを目的とする。具体的には、多文化コミュニケーションを構成する「言語」「コミュニケーション」「文化」の3つの基本的概念を理解し、多文化コミュニケーションのしくみを理解する。次に、様々なコミュニケーション活動や教科書のエクササイズを行い、多文化コミュニケーションのスキルを理解し養っていく。最後にグローバル時代における多文化コミュニケーションの役割と多文化共生の在り方について自分なりの意見を発信する。		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 多文化コミュニケーションを構成する基本概念とそのしくみについて理解する。</li> <li>2. 多文化コミュニケーションのスキルを理解し身につける。</li> <li>3. グローバル時代の多文化コミュニケーションの役割と多文化共生の在り方について自分の意見を発信できる。</li> </ol>		
9. アサイメント (宿題) 及びレポ ート課題	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 事前学習課題として指定された教科書の課題を実施した上で授業に臨むこと。</li> <li>2. 事後学習課題では、授業内で扱った内容の理解を定着できるよう教科書を再度よく読み、各章に応じて作成された「振り返りプリント」に取り組むこと。</li> <li>3. グループ発表は、「グローバル時代の多文化コミュニケーション」をテーマとして1グループ5人を限度として10分程度の発表をグループで行うこととする。詳細は授業時に説明する。</li> </ol>		
10. 教科書・参考 書・ 教材	<b>【教科書】</b> 八代京子その他著 『異文化コミュニケーションワークブック』 三修社、2001年 <b>【参考書】</b> 授業時に指示する。		
11. 成績評価の規準 と評定の方法	○成績評価の規準 <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 多文化コミュニケーションを構成する基本概念とそのしくみについて理解できたか。</li> <li>2. 多文化コミュニケーションのスキルを理解し身につけることができたか。</li> <li>3. グローバル時代の多文化コミュニケーションの役割と多文化共生の在り方について自分の意見を発信できたか。</li> </ol> ○評定の方法 以下の点を総合して評価する <ol style="list-style-type: none"> <li>1 授業への参加態度 総合点の 30%</li> <li>2 試験 (小テスト・期末テスト・口頭発表試験 等) 総合点の 30%</li> <li>3 提出課題 (レポート等) 総合点の 40%</li> </ol>		
12. 受講生への メッセージ	グローバル化の進展に伴い、異文化・多文化理解は今後益々重要視されることとなる。「文化」「コミュニケーション」という用語に我々は日常当たり前のように接する一方で、いざそれらを定義することになると決して容易でないことに気付くであろう。この授業では、実生活における例を豊富に参照しながら異文化・多文化理解がより身近なものとなるように目指していく。自身の経験を振り返りながら受講生同士で共有する過程を重要視する。そのためにもグループワークを頻繁に実施するので、積極的な授業参加を期待する。		
13. オフィスアワー	第1回の講義の際に指示をする。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	この科目を受講するにあたっての留意点	事前学習	教科書の「はじめに」と目次を読み、異文化コミュニケーションについて考えてみる。
		事後学習	講義の流れをつかみ、学習計画を立てる。
第2回	自己紹介1:自由に自分を紹介する	事前学習	1分間で自己紹介できるよう準備してくる。
		事後学習	他の学生の自己紹介内容と気づいた点をまとめ整理しておく。
第3回	第1章 異文化コミュニケーションとは 1:新しい常識とステレオタイプ(pp.9-16)	事前学習	教科書 pp.9-16の「セルフチェック」と「ステップアップエクササイズ」を教科書またはノートに書き込んでおく。
		事後学習	授業で学んだことを振り返りプリントに記入する。
第4回	第1章 異文化コミュニケーションとは 2:異文化理解への態度(pp.17-21)	事前学習	pp.17-21の「セルフチェック」と「ステップアップエクササイズ」を教科書またはノートに書き込んでおく。
		事後学習	授業で学んだことを振り返りプリントに記入する。
第5回	第1章 異文化コミュニケーションとは 3:文化とコミュニケーション(pp.22-35)	事前学習	pp.22-35の「セルフチェック」と「ステップアップエクササイズ」を教科書またはノートに書き込んでおく。
		事後学習	授業で学んだことを振り返りプリントに記入する。

第6回	自己紹介2: お互いの文化を紹介し合う	事前学習	今まで学んだことを参考に1分間で自分の文化について紹介できるよう準備してくる。
		事後学習	様々な学生の自文化紹介内容と気づいた点を振り返りプリントに記入する。
第7回	第2章 コミュニケーションスタイル: 自己開示とパラ言語 (pp. 46-57)	事前学習	pp. 46-57の「セルフチェック」と「ステップアップエクササイズ」を教科書またはノートに書き込んでおく。
		事後学習	様々な文化のコミュニケーションスタイルについて気づいたことを振り返りプリントに記入する。
第8回	第3章 言語コミュニケーション 1: ほめ方・叱り方・謝り方 (pp. 61-72)	事前学習	pp. 61-72の「セルフチェック」と「ステップアップエクササイズ」を教科書またはノートに書き込んでおく。
		事後学習	ほめ方・叱り方・謝り方の多様性について気づいたことを振り返りプリントに記入する。
第9回	第3章 言語コミュニケーション 2: 自己紹介と誘い方・断り方 (pp. 73-77)	事前学習	pp. 73-77の「セルフチェック」と「ステップアップエクササイズ」を教科書またはノートに書き込んでおく。
		事後学習	自己紹介や誘い方・断り方の多様なスタイルについて気づいたことを振り返りプリントに記入する。
第10回	自己紹介3: 自己のコミュニケーションスタイルを意識しながら自己紹介し合う	事前学習	自分のコミュニケーションスタイルを意識しながら1分間で自己紹介できるよう準備してくる。
		事後学習	お互いの自己紹介を通し気づいたコミュニケーションスタイルの文化多様性について振り返りプリントに記入する。
第11回	第4章 非言語コミュニケーション (pp. 81-100)	事前学習	pp. 81-100の「セルフチェック」と「ステップアップエクササイズ」を教科書またはノートに書き込んでおく。
		事後学習	非言語コミュニケーションの文化多様性について気づいたことを振り返りプリントに記入する。
第12回	第5章 価値観 (pp. 103-113)	事前学習	pp. 103-113の「セルフチェック」と「ステップアップエクササイズ」を教科書またはノートに書き込んでおく。
		事後学習	価値観の文化多様性について気づいたことを振り返りプリントに記入する。
第13回	第7章 異文化コミュニケーションスキル 1: (pp. 137-149)	事前学習	pp. 137-149の「セルフチェック」と「ステップアップエクササイズ」を教科書またはノートに書き込んでおく。
		事後学習	D. I. E. メソッドとアサーティブ・コミュニケーションについて学んだ内容を振り返りプリントに記入する。
第14回	第7章 異文化コミュニケーションスキル 2: (pp. 150-157)	事前学習	pp. 150-157の「セルフチェック」と「ステップアップエクササイズ」を教科書またはノートに書き込んでおく。
		事後学習	エポケーについて学んだ内容を振り返りプリントに記入する。
第15回	グループ発表	事前学習	グループ発表のリハーサルをして本番に備える。
		事後学習	自分のグループと他グループの発表で得た学びについて整理しておく。